



## 株式会社マルイチ

地域の食を支えるスーパーマーケットとして、宮崎県内に8店舗を展開するマルイチ。職場体験やインターシップ、食育体験ツアーなど地域の社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。中でも、大王谷学園中等部の職場体験（14歳のよのなか挑戦）では市内3店舗で4日間に渡って受入れを実施しています。

### 職場体験で伝える魅力

畑に出ることから始まる職場体験で「食の大切さ」から理解できた。

再定義した自社の価値がより「伝わる」プログラムへ

日頃の社員研修では、業務スキルの向上とともに人間性を磨くことも重視しているマルイチ。中学生に対してはどのようなプログラムを組み立てたのでしょうか。

受け入れ事業所を対象とした事前研修で、マルイチは自社の価値を「地域の食生活を担い、安心安全な『食』の提供を通じてお客様に幸せになっていただくこと」と再定義。その価値を中学生に知ってもらうため、プログラムでは次の3つのことを重視しました。

スーパーの原点である「食」に触れる体験を充実

マルイチは地元の農業法人「日向百生会」と契約し、無農薬・有機栽培野菜の仕入れと販売を行なっています。そこで、初日は中学生を畑に連れ出し、野菜の植え付けや収穫を行い、収穫した野菜を使った試食メニューを考えることを



宿題に。そして2日目に試食づくりと販売体験を取り入れ、「食の大切さ」と「マルイチのこだわり」を理解してもらいました。

販売メインではなく

さまざまな部門の仕事を経験

スーパーマーケットの職場体験といえば、売り場での接客やレジ打ちのサポートに終始しがちです。しかし、マルイチは畑での作業のほかバックヤード作業も取り入れ、青果・精肉・海産など各部門で中学生が作業。消費者の手に食材が届くまで、さまざまな仕事があることが分かっていくことへの興味・関心を引き出しました。



経営者や従業員、お客様など多くの大人と接する機会を

畑に行く前、各店への移動前など、要所に「食の大切さ」「日本の農業」「スーパーマーケットの使命」といった座学を入れ、社長や常務からも話をしました。従業員やお客様との関わりも含め、大人と

接する機会を増やすことで子どもたちの視野を広げました。働く意義を具体的に理解し、人間性も一歩伸長

プログラムを通じて、中学生に

明らかに変化が見られました。たとえば事前学習で「マルイチの人々はどんな想いで働いていると思いますか？」との問いに対し、「生懸命」と抽象的に答えていた生徒は、体験後「マルイチは、地域の人たちに食を通して幸せを届けています」「働くということとは誰かに恩返しをすること」という回答へと変化。事業所独自の価値



を理解するとともに「他者に貢献する」という視点を持てるようになりました。また、他の生徒からも「人間関係の良い作り方を学びました」といった声。「その事業所の価値を見つけ、働く人々の想いを知る」という各事業所共通の課題に取り組む中で、マルイチが大切にしている「人間性を磨く」ということについても、この職場体験が確かな一助となったようです。

職場体験プログラム				
	1日目	2日目	3日目	4日目
時間	11/26(火)	11/27(水)	11/28(木)	11/29(金)
08:00	食の大切さ／日本の農業／地域との関わりについて学ぶ	無農薬野菜を使った試食メニュー話し合い	スーパーマーケットの使命とマルイチの取り組みを学ぶIⅡ(社長・常務)	開店作業
09:00		試食づくり		レジ接客 バックヤード作業
10:00	接客について学ぶ		各店へ移動	
11:00	日向百生会畑へ移動	試食販売その他準備後各店へ移動	店舗見学・作業内容説明(店長)	
12:00	昼食休憩(60分)	昼食休憩(60分)	昼食休憩(60分)	昼食休憩(60分)
13:00				バックヤード作業
14:00	日向百生会畑で野菜植え付け・種まき・収穫作業	試食販売体験	レジ訓練 バックヤード作業	本部へ移動
15:00				全体の振り返りとまとめ
16:00	今日の振り返り	今日の振り返り(店長対応)	今日の振り返り(店長対応)	
17:00	終了・帰宅	終了・帰宅	終了・帰宅	終了・帰宅
宿題	試食用メニューを考える			

### 事業所が感じた受入れメリット

職場体験には、社員の研修効果もあると実感

もともとマルイチには「地域の子どもを皆で育てていこう」という気風があり、職場体験は教育に携われる貴重な機会として取り組んできました。今回、プログラムを充実させたことで実感したのは、子どもたちに自社の理念や価値をより深く伝えられたこと。もちろん、社員にもメリットがあるということです。子どもたちを介して指導スキルが上がリ、日頃とは違う視点から地域やお客様に目が向くので、職場体験には社員の研修効果もあるのだなと感じています。

自社の理念を地域に浸透させるにも役立つ

試食メニューを考える宿題については、家で保護者の方とも相談してみてもと伝えました。最近では共働きのご家庭が増えて、家庭での食事は時短料理になりがちです。この宿題を通じて、保護者の方にも「食の大切さ」をあらためて考えてほしいという思いを込めました。また「マルイチでそんなことをやっているんだね」と知っていただけは、自社に対する地域の見方も変わってくるんじゃないかと。すぐに結果が出るものではないかもしれませんが、今後も職場体験の受け入れは積極的に続けていきます。

(取締役 高木 資子さん)